

事務事業マネジメントシート(令和 5年度実績と令和 6年度計画)

令和 6年 8月20日更新

事務事業名		放課後児童健全育成事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	2 福祉の健康				所属部	こども部	課長名	衛藤 和博
	施策	4 子育て支援の充実				所属課	こども未来課	担当者名	高鷹 博和
	施策の柱	16 子育てと仕事の両立支援				所属班	保育班	(内線)	1621
予算科目		会計一般	款3	項2	目4	事業連番10582	根拠法令	合志市放課後児童対策事業実施要綱 合志市放課後健全育成事業補助金交	
終了、開始年度		☐ 5年度で終了 ☐ 5年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	市内小学児童の放課後預かりを目的に、市内放課後児童クラブの運営を行う事業。 主な予算内訳として放課後児童クラブの運営を事業者に委託する委託費や受託事業者がクラブを運営するに当たり必要な経費(支援員の人件費、児童送迎に係る経費等)を補助金で支援している。 現在、全28クラブ(一般社団法人20、社会福祉法人8)の運営を行っている。 市内人口の増加や夫婦共働き世帯の増加により、年々、クラブ利用希望者は増えている。
【業務の流れ】	○補助金関係 ①補助金申請書受付、審査 ②補助金決定伺い ③補助金決定通知書 ④補助金交付伺い ⑤実績報告書(添付:収支精算書、事業報告書) ⑥補助金支出等審査 ⑦補助金返還命令・受入れ ○委託関係 ①事業計画打合せ、検討 ②事業施行伺い ③委託契約伺い ④委託契約締結 ⑤実績報告書・請求書受付、審査 ⑦委託料支払い
【主な予算費目】	委託料、使用料及び賃借料、補助金
【意見や要望】	○合志風の森小学童どうさんクラブの利用人数増加に伴い、支援単位の増設を希望している。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:
①手段(主な活動) 5年度実績(5年度に行った主な活動)(DO) 市内放課後児童クラブの運営について、6団体に業務委託を行った。また、放課後児童支援員等処遇改善事業や送迎支援事業など実施する放課後児童クラブ運営者に対し、補助金交付申請を受け付け、審査のうえ、交付決定し、補助金を交付した。実績:28クラブ登録児童数1,070人		6年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 市内放課後児童クラブの運営について業務委託を行う。また、国基準に基づいて放課後児童支援員等処遇改善等事業など実施し、申請のあったクラブ運営者に対して補助金を交付する。
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ア:学童保育の登録児童数	人	南ヶ丘小第3・4クラブ、西南小第4・5クラブ開所に伴う委託料及び補助金の増
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	(単位)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)
→イ:小学校の児童(平成26年度までは4年生までの児童が対象で、現在は主に3年生までを受け入れている。)	人	→ア:小学校1~3年までの児童数
	人	→イ:市内小学生の数
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)
→イ:・仕事と子育ての両立ができる。 ・児童の健全育成ができる。	人	→ア:学童保育の延べ利用児童数
*③成果指標設定の理由と6年度目標値設定の根拠 事業量を図るため延べ利用数とした。		総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0

(2)各指標・総事業費 の推移		単位	3年度 実績(決算)	4年度 実績(決算)	5年度 目標(当初予算)	5年度 実績(決算)	6年度 目標(当初予算)	7年度 予定	8年度 見込	9年度 見込	
① 活動指標	ア	人	966	1,002	1,100	1,100	1,300	1,300	1,300	1,300	
	イ										
② 対象指標	ア	人	2,498	2,522	2,500	2,556	2,500	2,500	2,500	2,500	
	イ	人	4,957	5,019	5,000	5,108	5,000	5,000	5,000	5,000	
③ 成果指標	ア	人	163,616	185,046	220,000	210,906	220,000	220,000	220,000	220,000	
	イ										
投資 入費 量	事業 費 内 訳	国庫支出金	千円	99,424	94,986	93,677	84,708	101,245	110,288	110,288	110,288
		都道府県支出金	千円	84,525	79,846	93,507	82,210	101,075	110,288	110,288	110,288
		地方債	千円								
		その他	千円	142	39						
		繰入金	千円								
	(A) 事業費計	一般財源	千円	79,814	99,695	93,980	94,290	101,632	110,289	110,289	110,289
		(A)のうち指定経費	千円	263,905	274,566	281,164	261,208	303,952	330,865	330,865	330,865
		(A)のうち時間外、特勤	千円	161	175	149	156	301	171	171	171
	人件 費	正規職員従事人数	人	4	4	2	3	2	2	2	2
		延べ業務時間	時間	1,650	1,350	540	1,275	540	540	540	540
	(B)人件費計		千円	6,451	5,138	2,151	4,643	2,151	2,151	2,151	2,151
トータルコスト(A)+(B)		千円	270,356	279,704	283,315	265,851	306,103	333,016	333,016	333,016	

事務事業名	放課後児童健全育成事業	所属部	こども部	所属課	こども未来課
-------	-------------	-----	------	-----	--------

2 評価の部（CHECK）

*原則は 5 年度的事後評価、ただし複数年度事業は 5 年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	① 5 年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】 子ども・子育て新制度により、例年と比較して国・県からの通知等が遅かったが、各クラブへの補助金等の事務手続きについては滞りなく進めることができ、目標を達成した。
	② 6 年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】 委託料・補助金は滞りなく支払いを予定している。
有効性評価	③ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 地域の特性にあわせ補助事業並びに委託事業の形態をとっていたが、クラブ運営について業務委託とすることで、より効率的な運営が期待できる。また、放課後児童支援員の質の向上を図ることで安心・安全な学童保育が実施できる。
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 この事業に類似する放課後子ども教室（文科省）などの事業の実施検討を働きかけ、連携を図ることが可能である。
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 国が規定する基準が設けてあり、今後、放課後児童健全育成に行政として果たす役割が大きくなるため事業の削減は出来ない。
	⑥ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 最低限の職員で対応しており、削減の余地はない。
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 本事業は、市内の小学生で、かつ放課後の時間帯に就労等の理由で家に保護者がいない児童が対象であり、クラブ運営費には保護者からの利用料も含まれており公平・公正である。
役割分担評価	⑧ 行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 国が規定する事業であるため、役割分担は適正である。

3 評価結果の総括（CHECK）

開発等による人口増や共稼ぎ世帯の増加により、クラブに対する需用が更に増加することが見込まれ、安全・安心な保育を実施するためにも、より効率的な運営や適正な放課後児童支援員の配置等が必要である。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☒現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）				(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要） <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																										
		削減	維持	増加																								
成果	向上																											
	維持		○																									
	低下																											
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																												